

第2学年東組 生活科学学習指導案

「支えてくれた人に成長と感謝を伝えよう ～これまでのわたし これからのわたし～」

学習指導者 河口 美穂

1 学級（35名）の実態

（1）共に学びを進め合うことに関する学級の実態

質問紙調査の結果を見ると、課題の解決場面で、「自分の考えがこれでよいか見直している」と答えた子供は28名いる。しかし、実際の授業では、自分の考えがこれでよいか見直す姿はあまり見られない。例えば、おもちゃ作りでは、「1年生が楽しめるおもちゃを作る」という課題を設定していても、1年生には扱いにくいおもちゃを設計したり、1年生には難しい言葉を使って、遊び方のルールの説明文を書いたりするなど、目的を意識せず表現し、見直す姿はほとんど見られない。また、個人で考えを進める子供が多く、必要に応じて友達に相談したり確かめたりする姿はあまり見られない。

（2）本単元の学習に関する学級の実態

手伝いや生き物の世話など意欲的に取り組む姿が多く、できることが増えてきている。質問紙調査の結果を見ると、「去年の自分よりも成長していると思いますか」という問いに対しては、33名の子供が「成長している」と感じている。具体的な内容として「かけ算ができるようになった」「友達に優しくできるようになった」などがあるが、記憶だけでは多くの成長を思い出すのが難しい様子が見られる。

2 本単元で目指す「共に学びを進め合う子供」の姿

課題設定 「これまでの思い出を集めて成長を見付けよう」「支えてくれた人に成長と感謝を伝えよう」といった目標の達成に向けて作った学習計画を基に、本時すべきことは何かを確認して課題を設定する。

解決の見通し これまでの経験を基に、同じように使えそうなことは何かを考える。例えば②時で、自分の思い出を集める際には、「授業中に分からないことがあった時は、友達が教えてくれたから、友達に自分のことを聞いてみたい」「自分のことについて調べるには、今までの自分の写真や作品を見たり、人に聞いたりするといいな」などと、これまで情報を集める際に課題解決につながった解決する方法を想起し、解決の見通しをもつ。

解決 自分の考えができた際には、目的に合っているか自分の考えを見直していく。例えば⑧時では、これまでの自分が見付けた成長の中から、より支えてくれた人に伝えたい成長を選んでいく。その際、選ぶ基準を「思いが強いもの」「支えてくれた人のおかげで成長したことが伝わるもの」を基準に、考えを作ったり、その後考えを見直したりしていく。「『家族が応援してくれたおかげで嫌なことでもあきらめなくなった』ことを伝えたい。この考えを見直してみよう。これは、自分の思いが強いものだし、支えてくれた人のおかげで成長したものが伝わる内容になっているよ」と自分で考えを見直したり、「どうしてその成長を選んだの」「5歳の時には、一輪車に乗れなくてあきらめたことがあるけれど、今は家族に練習に付き合ってもらって乗れるようになったよ。本当に嬉しかったから、これを家族に伝えたいんだ」「一輪車に乗れたのが本当に嬉しかったんだね。支えてくれた人のおかげで成長したことも伝わる内容だね」などと友達と考えを見直したりしながら、支えてくれた人に伝えたい成長を選んでいく。

振り返り 「本時できたこと」と「その理由」の二つの視点で振り返っていく。例えば⑧時では、「今日は、たくさんの成長の中から家族に伝えたい成長を選べたよ。友達と理由を伝え合って、支えてくれた人に伝わるものか確かめたからだよ」「僕は自分の成長がこれでいいか自信がなかったけど、目的に合っているか考えを見直すと自信がもてたよ」などと振り返り、協働のよさや方法を使うよさに気付いていく。

次の問題発見 学習計画のできたことに印をつけ、目標の達成に向けて必要なことを見出していく。⑧時では、「今日は、支えてくれた人に伝えたい自分の成長を選ぶことができたよ」「どの方法でまとめるができていないな」などと、本時できたことと学習計画を比べながら、まだできていないことを確かめる。

3 達成意欲を高める目標共有の工夫 ②・⑦時

②時では、「昔の自分と今の自分を比べてどんな成長があるかな」と問いかけ、「難しいことでもチャレンジできるようになった」「友達に優しくすることができるようになった」などを表出できるようにし、成長とは、「昔と今の自分を比べて、よくなったと思えること」という言葉の意味を共有する。そして、①時で作成した黒板の年表を見ながら、自分の思い出が分かる「思い出年表」を作ると今の自分と比べられて自分の成長が見付けやすくなるという見通しをもち、「これまでの思い出を集めて成長を見付けよう」と目標を設定する。⑦時では、年表に集めた思い出を基に成長を見付ける活動を行う。その際、「どうして成長できたのかな」と問いかけ、発言を「自分の頑張り」と「周りの人の支え」に分けて板書することで、自分だけでなく周りの人の支えもあったからこそ、自分の成長につながっていたことに気付けるようにする。その際、支えの具体（声掛け、手伝い、見守り等）を年表の思い出と結び付けながら問いかけ、「支えてくれた人に成長を伝えたい」「感謝を伝えたい」という思いを高め、目標を「支えてくれた人に自分の成長と感謝を伝えよう」と再設定する。

4 単元計画と方法の習得の段階に合わせた手立て（本時 8/20）

| 次 | 単元計画 | 方法の習得の段階に合わせた手立て |
|---|--|---|
| 一 | <p>①② 今までのことを振り返ろう 幼少期や入学後の行事の写真を、年表のように時系列で遡って提示し、経験を想起した後、成長をもっと見付けたいという思いを高め、目標を設定する。</p> <p>③ 思い出を振り返る準備をしよう 思い出を集める方法として「人に聞く」「物や記録を見る」などの経験を基に、誰（家族・友達・先生など）にどんなことを聞けばよいか、何（写真・作品・連絡帳など）を見ればよいかを考えたり、インタビューの際の注意点や年表形式のワークシートにまとめることを共有したりして、思い出を振り返る準備をする。</p> <p>④⑤ 「思い出年表」の思い出を増やそう 「思い出年表」をより成長を振り返られるものにしていくために、家から持ってきた写真や思い出の品等を見ながら、「思い出年表」の思い出を増やしていく。</p> <p>⑥⑦ 集めた思い出から成長を見付けよう 年表に集めた思い出から、「昔の自分」と「今の自分」を比べて成長を見付け、成長カードに記入する。全体交流では、周りの人の支えが自分の成長につながっていたことに気付いたことから、支えてくれた人に「成長を伝えたい」「感謝を伝えたい」という思いを高め、目標を再設定し、学習計画を立てる。</p> | <p>「解決する」方法 「目的に合っているか自分の考えを見直す」 【認知段階】 これまでに、自分の考えを見直す視点として、「することに合っているか考えを見直す」を合い言葉として提示し、「みんなの考えをパワーアップする合い言葉だよ」と共有している。考えを見直すことと目的に合った考えになることやもっとよい考えに気付くなどのよさがあることも共有している。</p> |
| 二 | <p>⑧ 支えてくれた人に伝えたい成長を選ぼう 前時に見付けた成長を見返し、支えてくれた人に伝えたい成長を選ぶ。その際、「思いが強いもの」「支えてくれた人のおかげで成長したことが伝わるもの」を基準として確かめながら成長カードをワークシートに整理する。</p> <p>⑨～⑱ 成長や感謝を伝える準備をしよう 選んだ成長を写真や文字などで作品（紙芝居、巻物、すごろく、ランキングなど）にまとめたり、感謝を手紙や手伝いなどどんな形で伝えたいかを考える。完成した作品や手紙を持ち帰り、感想をもらう。</p> <p>⑲ 感想を読み、取り組んだことを振り返ろう 感想を読み、これまでの活動で工夫したことを振り返る。全体交流では、自分の頑張りにも気付く。</p> <p>⑳ 3年生になってやってみたいことを話し合おう 年表を基に、次は3年生であることを共有し、3年生ではどんな成長をしたいか、そのために今何ができるのかを考え、今後の生活の意欲を高める。</p> | <p>【想起段階】 「自分の考えができた後、よりパワーアップさせるにはどうすればよかったかな」と問いかけることで、方法を想起できるようにする。想起できない子供には、方法の掲示物を見たり、方法を使っている子供に注目したりするよう声掛けをすることで、方法を想起できるようにする。</p> |

5 本時の学習

| | |
|----|---|
| 目標 | 前時までに整理した成長カードを基に、「支えてくれた人に自分の成長や感謝を伝える」という目的を意識し、「思いが強いもの」「支えてくれた人のおかげで成長したことが伝わるもの」という基準で、自分が伝えたい成長を選ぶことができる。 |
|----|---|

| 学習活動 | 主な子供の意識 | |
|----------|--|---|
| 見通し | <p>1 学習計画を基に、本時の学習課題を設定する。</p> <p>2 解決の見通しをもつ。</p> | <p>学習計画を見ると、今日は、たくさんあった成長の中から、支えてくれた人に伝える成長を選んでいくよ。</p> <p style="text-align: center;">支えてくれた人に伝えたい成長を選ぼう</p> <p>自分の成長が選べた後は、見直すと自分の考えがパワーアップするよ。</p> <p>見直す基準は何がいいかな。先生は、「練習をしているいろんなことができるようになった」を「使う」で、「文字がきれいに書けるようになった」を「使わない」にしているよ。</p> <p>先生は、いろんなことができるようになったことがとっても嬉しかったんだね。だから、とっても嬉しかったとか、「自分の思いが強いもの」を選ぶといいんじゃないかな。</p> <p>目当てを見ると、支えてくれた人に伝えるから、やっぱり「支えてくれた人のおかげで成長したことが分かるもの」を基準にするといいと思うよ。</p> <p style="text-align: center;">先生みたいに、基準を確かめてワークシートの枠に分けていくよ。</p> |
| | 行動 | <p>3 成長カードを基準に照らして吟味し、支えてくれた人に伝える内容を選ぶ。</p> <p>(1) 個人</p> <p>(2) ペア</p> |
| 振り返り・見直し | | <p>4 本時の学習を振り返る。</p> |

| | |
|----|--|
| 評価 | 「思いが強いもの」「支えてくれた人のおかげで成長したことが伝わるもの」という基準に合っている成長カードを動かしたり、友達と考えを確かめ合ったりしながら、伝えたい成長を選ぶことができる。 【方法：発言、様相、ワークシート】 |
|----|--|

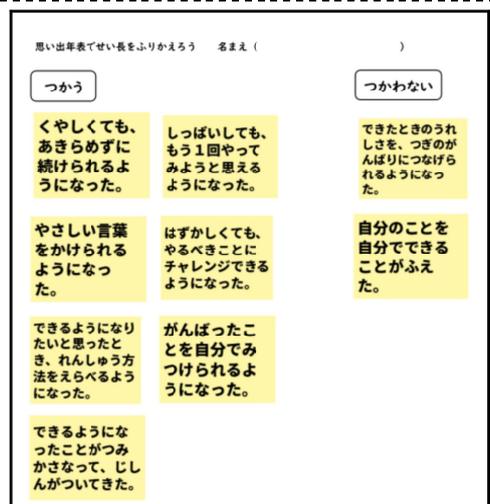
6 本時の詳細 (は、他者との関わりを促す手立て)

～見通し～ **学習活動 1・2**

「支えてくれた人に自分の成長と感謝を伝えよう」という目標の達成に向けて作成した学習計画を提示し、「支えてくれた人に自分の成長や感謝を伝える」という目的を確認する。さらに、学習計画を基に、「今の自分たちは、次に何をすればよいか」と問い、成長の中から支えてくれた人に伝えたい成長を選ぶ必要があることに気付けるようにし、「支えてくれた人に伝えたい成長を選ぼう」と本時の学習課題を設定する。続いて、「自分の考えができた後、よりパワーアップさせるにはどうすればよかったかな」と問いかけ、解決する方法を想起できるようにし、考えを見直す基準を吟味する場面を設定する。その際、教師の成長の例を紹介し、「使う」「使わない」をどう分類するか基準を一緒に考えられるようにし、支えてくれた人に伝えたい成長は、「思いが強いもの」と「支えてくれた人のおかげで成長したものが分かるもの」であることから二つの基準を共有する。基準を黒板に示した上で、成長カードとワークシートの「使う・使わない」の枠を提示し、分類の仕方を教示する。また、成長カードを動かす際には、基準を基に考えられるように、たしかめくんに話しかけてから動かしていくことを共有する。たしかめくんには、三つの質問（①選んだ成長は何かな②どうして思いが強いと思えるのかな③どうして支えてくれた人のおかげで成長したことが分かると思うのかな）が書かれている。「同じように、自分のカードも動かして選んでみよう」と投げかけ、どの成長を支えてくれた人に伝えたいかを自分で確かめたり、見直したりしながら選ぶ見直しをもてるようにする。

～行 動～ **学習活動 3**

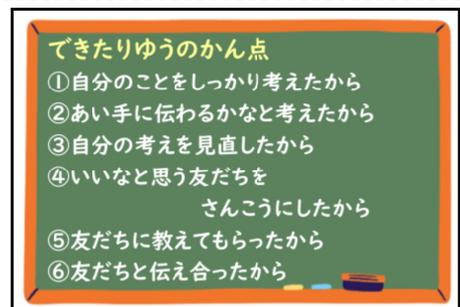
前時に整理しておいた成長カードを、ワークシート上の「使う・使わない」の枠に動かしながら、分類していく。その際、「たしかめくん」をそばに置き、成長カードを「使う」に動かす前に、たしかめくんに向かって自分の言葉で説明し、基準を基に考えていく。例えば、「①たしかめくん、最後まであきらめなくなかったを使うに動かすよ。②今はどんなことでもあきらめなくなかったし、いろんなことができるようになって嬉しいからだよ。③お父さんのおかげで成長したものだよ」などと声に出して確かめていく。成長カードを動かして終わっている子供には、「自分の考えができた後は、どうすればよかったかな」と問いかけ、目的に合っているか見直す方法を想起できるようにする。行動場面の後半には、全員が隣同士のペアになって互いのワークシートの「使う」と選んだ成長カードの内容について、たしかめくんの質問を参考に問い返しなが見直す時間を設定する。自分だけでなく友達と確かめ合い、納得して選べた成長を「使う」に残せるようにする。



【ワークシートの例】

～振り返り・見直し～ **学習活動 4**

挙手で「思いが強いものを成長に残せた人」「支えてくれた人のおかげで成長したことが分かるものを成長に残せた人」の順に確かめ、「思いが強いもの」「支えてくれた人のおかげが伝わるもの」を基準にして、たくさんあった成長の中から伝えたい成長を選べたことを全体で共有する。本時の学習課題を再確認し、振り返りの視点「①本時できたこと②その理由」を提示する。振り返りカードに「今日は～できた。それは～したから」の型と、できた理由の観点を示し、学習の過程と結び付けて理由を選びやすくし、方法を使うよさや協働するよさに気付きやすくする。最後に学習計画を見て、できたことに印を付け、まだできていないことを確かめ、次時へとつなげる。



【振り返りの掲示】

